令和３年度　第１回川崎市地域公共交通活性化協議会

日時：令和３年１２月２３日（木）１５時～１６時

会場：川崎商工会議所　２階　会議室４

出席者（敬称略）：

・東海大学工学部土木工学科　教授	梶田　佳孝	
・横浜国立大学大学院　都市イノベーション研究院　特任准教授	有吉　亮	
・東日本旅客鉄道株式会社　横浜支社総務部　企画室　企画部長	山本　秀裕	（代理：金木）
・京王電鉄株式会社　鉄道事業本部　計画管理部長	加藤　慎司	（代理：篠田）
・小田急電鉄株式会社　交通サービス事業本部　交通企画部長	小川　司	（代理：山野）
・東急電鉄株式会社　経営戦略部長	小井　陽介	（代理：水鳥）
・京浜急行電鉄株式会社　執行役員　鉄道本部　鉄道統括部長	櫻井　和秀	
・神奈川県バス協会　理事長	八郷　大文	
・川崎鶴見臨港バス株式会社　常務取締役運輸部長	入野　晴朗	
・東急バス株式会社　運輸事業部　運輸計画部長	岡野　恭子	（代理：原山）
・小田急バス株式会社　運輸計画部長	宮寺　孝次	（代理：前野）
・神奈川中央交通株式会社　運輸計画部長	吉野　茂	（代理：橋山）
・横浜市交通局　自動車本部長	原田　浩一郎	
・川崎市交通局　企画管理部長	斎藤　禎尚	
・神奈川県タクシー協会川崎支部　事務局長	大葉　章彦	
・川崎市建設緑政局　総務部長	齋藤　正孝	
・川崎市港湾局　港湾経営部長	林　健太郎	（代理：二宮）
・神奈川県警察本部　交通部　交通規制課　都市交通対策室長	飯島　敏明	（代理：平塚）
・市民委員	君　ひとみ	
・川崎市全町内会連合会　常任理事	高橋　慶子	
・国土交通省　関東運輸局　交通政策部　交通企画課長	板垣　友圭梨	（代理：福浪）
・国土交通省　関東運輸局　神奈川運輸支局　首席運輸企画専門官	三橋　裕	（代理：桑野）
・川崎市健康福祉局　長寿社会部長	下浦　健	
・川崎市まちづくり局　交通政策室長	定山　武史	

欠席者（敬称略）：

・神奈川県個人タクシー協会　専務理事	吉原　輝
・市民委員	田中　哲

次第

１　地域公共交通計画の進行管理について

◆計画の進行管理及び協議会の進め方について　資料１

◆地域公共交通計画の評価等結果について　資料２

２　計画に基づく各事業の取組状況について

◆令和３年度の各事業の取組状況について　資料３

３　川崎市地域公共交通活性化協議会　年間スケジュールについて　資料４

４　その他

１　地域公共交通計画の進行管理について
◆計画の進行管理及び協議会の進め方について　資料１
◆地域公共交通計画の評価等結果について　　資料２
２　計画に基づく各事業の取組状況について
◆令和３年度の各事業の取組状況について　　資料３
３　川崎市地域公共交通活性化協議会　年間スケジュールについて　　資料４

【議事要旨】
〇梶田会長
・達成状況はコロナの状況もあり評価しがたいところもあるが、このような形でやっていくとのこと。
〇バス協会
・コロナ禍にあって終息後もバス利用者の何割かは戻らない想定。そうなると目標はそれに合わせて修正する必要があるのではないか。また、資料３の p2～3 であるが、p2 では再編後の各系統の利用状況は増えたのか、P3 の事例の利用状況はいかがか、それぞれ伺いたい。
〇事務局
・コロナの影響による指標の見直しについては、昨年度検討の中でもコロナの影響を受けた中でどう対応していくか、という検討を行った。計画の中でもコロナの状況を見極めて見直しを図っていくとしているので、皆様から状況をお聞きしつつ、コロナの状況を見ながら、会議で報告してご意見を伺っていきたい。当面は、コロナの状況も提示しながら、実際の数値を見せていきたい。取組事例については、各事業者から可能な範囲でコメントをいただけるとありがたい。
〇小田急バス
・資料３の p2 の新百合ヶ丘駅からの路線については、従前は 2 社による半々ずつの運行を当社のみの運行にシフトしている。当該地域は高齢化が進んだ地域なので、あまり利用率は高くない。もっともメリットが高いのは、新百合ヶ丘の発着に関して、当社が 7 割程度を占める中で、重複区間が多い。その意味で乗車機会の向上がある。その他、新百合ヶ丘駅での乗り場の見直しにより方面別に設定し直したことで、利用者にとって乗りやすい環境を整備している。
〇臨港バス
・資料３の p3 の取組については、実証実験ということで実施しており、一般乗合の車両ではなく貸切車両である。4 条乗合では運行していない。運賃も 340 円が妥当なのかも検証しているところである。効果が全くないわけではないが、効果的とは言い難い。事業者からすると、このような取組により状況打破を図っていくことは良いと考えるが、実際問題としてこれで支払って乗車してくれるとは思っていない。当然長い距離を走るので経費も掛かる。市とも話をして、どういった運行がよいか、運行のあり方も色々あってしかるべきであり、最適解を求め模索しつつ、頑張っていくという方向性で進めていきたい。

〇高橋委員
・資料２のコミュニティ交通を導入した地区と、資料３の検討状況の説明があるが、麻生区では高石地区で実績を上げているところである。一方で、協議会が休止しているところもある。ただ、小田急電鉄とタクシー会社のオンデマンドによるコミュニティバスが実証実験をやっており、あとはアンケートの結果を待つばかりである。地域もコロナの状況で動いてはいないが、麻生区の町会連合会の会合終了後に町会長さんから、片平など道路が狭いためにバスが入れないところにおいて検討していきた

いという意向も聞いている。ただし、立ち上げが非常に大変なところであるので、令和４年度以降に実際、どのような働きかけをしてくれるのか。また、シャトルバスの運行経路が見えない中で、いつ頃その結果がわかるのかを把握したい。

〇事務局

・コミュニティ交通の取組については、令和３年度に地域交通の手引きの見直しを検討しており、現在パブリックコメントを実施している。需要の把握と事業者のマッチングにも時間を要していた等の問題がある中で、資料３の P4 の中にも触れているが「トライアル制度」というものについて、今までアンケートのみで需要を整理していたのを、実際にまずは車両を走らせてどの程度乗ってくれそうか、という実数値に基づく検討を行う制度を検討中である。また、道路運送法に基づく運行が難しい場合における手順も手引きの中に明確化しこうということと考えている。手引きが確定次第、各地区と意見交換していきたい。また、新百合ヶ丘駅周辺での社会実験「しんゆりシャトル」については、川崎市と小田急電鉄と連携した取組を進めている。結果については取りまとめ中と伺っている。機会をとらえて報告したい。

〇梶田会長

・設立・導入が進むよう検討いただきたい。資料３においても赤枠以外にも様々な取組が示されている。お聞きしたい内容があればお尋ねいただきたい。

〇有吉委員

・全体として、4 点コメント、1 点質問したい。１点目は公共交通の人口当たりの利用回数について、例えば市民の外出自体がどうなったのか。交通手段となるとマイカー等はどうなったのか。全体の移動総量がどうなったのか。全体的に微減したのか、転換等が起こっているのか、そのあたりの参考情報があると理解しやすい。2 点目は満足率についてグラフを見ると満足している人もいる。どういう方が不満に思っているのか、可能であればわけて見て欲しい。例えばバスの利用経験等で結果を把握できれば議論がしやすい。３点目は系統数を目標値にしているが、例えば、系統と人口の重ね合わせが情報としてあると議論しやすい。例えば、高齢者人口と系統の重ね合わせや、自家用車の非保有者人口との重ね合わせがあると議論ができる。４点目はコミュニティ交通の導入地区数について、地区数だとなかなか増えないのではないか。一方で、地域公共交通会議の議論を聞くと、導入検討に着手した地区もありそれも進捗の一つ。トライアルやったというのも一つの進捗。そのあたりの動きが見えるとよい。5 点目は質問だが、地域公共交通計画のモニタリング・PDCA となると、今回は C（チェック）の段階にあたるが、毎年 C（チェック）をやろうとしているのか。5 年かけて C（チェック）をするのか。

〇事務局

・ご指摘については今後の資料作成に活かしていきたい。最後の質問について、今回設定した指標については 5 年間で達成していこうと設定している。5 年間全体で目標値を目指すものである。しかし、毎年度の取組も重要なので、進め方としては、毎年度の取組紹介とともに指標の進捗も見せ、5 年後に全体評価と合わせて次期計画に向けた見直しの検討につなげたい。

〇有吉委員

・資料４は、最初の１～２年のスケジュール表というイメージか。5 年間での PDCA のロードマップがあって、今はこの部分をやっているという示し方があるとよい。スケジュール、ロードマップの中で P

がなにで、等があるとよい。この状況下で、この目標のままでよいかということもある。途中で見直した結果、見方や指標を変える議論があってもよいと思う。

〇梶田会長

・令和３年度は今回で中間報告、来年度以降は夏明けくらい開催になり、必要に応じて来年３月にも開催する予定か。

〇事務局

・そのように考えている。

〇梶田会長

・コロナ以外にもいろいろあり、地域公共交通は大変な状況にあるが、こういった会議で利用動向などを見ながら事業を進めていくこととなるので、引き続きご協力お願いしたい。

（以上）